手城小だより

福山市立手城小学校
２０２５年(令和７年)
１月 29 日（水）

【学校教育目標】自他を認め合い、主体的に生きる力をもった児童の育成

命に感謝、今を生きる　ー忘れられない原爆の悲劇ー

１月 22 日（水）、４年生が手城町在住の被爆体験証言者、廣中正樹様に被爆体験を話していただきました。４年生に「私の体験が、ただの昔話にならないために、勇気を出して原爆の話をします。難しいところや分からないところがあるかもしれませんが、大切なことなので、しっかりと聞いてください。スクリーンを見ながら、私の話を聞いて想像してください。」と語り始めました。

原爆投下当日のことを語る廣中さん

1945 年８月６日（月）８時 15 分、当時、私は５歳 10 か月、爆心地より 3.5Km の己斐町の自宅のそばで被爆しました。鉄道局の職員だった父は原爆ドーム近くで通勤電車の中で被爆、全身にやけどを負い、歩いて帰宅しました。背中に刺さったガラス片を「正樹、ペンチで抜いてくれ」と頼まれましたが、体に食い込み取れませんでした。父は翌日７日に亡くなりました。

のき下で悲しくて悲しくて柱に頭をつけて泣きました。涙がとまりませんでした。父との別れがこんなに辛くて苦しいものかと感じました。

ー人の命は地球より重いー

人の命は計り知れないものなのです。戦争で原子爆弾により一瞬にして、何十万の方が亡くなられました。父もその一人です。国にとって父は何十万の一人でしょうが、私たちにとって父は全てなのです。一家の柱となる者がいなくなると、家の中は大変なことになるからです。いくらお金を積まれても父は帰ってきません。どうかみなさんもいただいた自分の命を大切にしてください。

今日の話を知ってもらい、私のような体験をしないでください。

その為に①二度と戦争を繰り返さない。②核兵器を作らない、使用しない、させない。③平和と命の尊さを知って命を大切にする。④全世界の人々と話し合い、平和な社会を築いてください。皆さんは家族の宝、国の宝です。元気で成長してください。

過去を知って、次は、未来を考える。皆さんが今日の話から何かを悟ってくれるのを信じています。（廣中正樹さん）

廣中さんの話を静かに耳を傾けていた４年生は、「８月６日に何があったのか」を知り、これから私たちが生きていく上で、大切なことは何かについて考えていました。

福山シティFC「夢プロジェクト」

2015年に福山市をホームタウンとして創設し、備後エリアで活動しているサッカークラブ「福山シティフットボールクラブ」。現在は、中国サッカーリーグに所属し、JFL昇格、Jリーグへの参入を目指しているチームです。１月 10 日（金）、17 日（金）に瀧本辰弥コーチと藤井洋コーチをお招きして、3･4･5年生にサッカー教室を開いていただきました。サッカーを通じて運動の楽しさや、仲間と協力して目標達成することの大切さを教えていただきました。

サッカー教室を終えて･･･子供たちの感想

〇色んなやり方の鬼ごっこをしました。二人組でボールを投げたり、蹴ったり、取り合ったりしているうちに、だんだんと体があたたかくなって、最後は暑くなりました。着ていた上着を脱ぎました。とても楽しかったです。

〇2 個のボールを使ってやったミニサッカーが楽しかったです。最後までずっと走っていました。息がはぁはぁとなりました。運動は苦手だったけど、あっという間に時間がすぎて楽しかったです。

6年生彫刻指導　ー浮き彫りを楽しむー

１月２２日（水）６年生が「浮き彫り」の技法を学びました。

「頂点を君臨する神の存在，切り出し刀，つまりラスボスです。とても難しい。でも，極めたら面白い」と話すのは講師であるサラダ文教社の皿田弘美さん。１００種類以上ある彫刻刀の中で，よりすぐりの５本の彫刻刀を使っている子どもたちですが，その中でも，切り出し刀はなかなか使うことがありませんでした。卒業制作であるオルゴール作りに生かそうと，皿田さんからそのコツを教えていただきました。「中学生になっても，浮き彫りをします。その時に活躍するのが切り出し刀です。ぜひ，切り出し刀を使ってマスターしてください。」と皿田さんが話されました。

皿田さんはが刃の形状や持ち方、彫り方、重なっている葉などの立体感の表現の仕方を実演したり動画で見せてくれたりしながら、分かりやすく教えてくださいました。

切り出し刀は、はみ出さずに形をとりたい時、形にに沿って切り込みをいれます。

Ｖ字形の溝を彫るようにすると、三角刀よりシャープな線が彫れます。